

令和6年度

こどもの未来応援基金 未来応援ネットワーク事業

フォスタリングカードキット とけた

TOKETAの リ・デザイン報告書



一般社団法人
福祉とデザイン
Welfare & Design



私たちが2021年に開発した「フォスタリングカードキットTOKETA(とけた)」は、里親さんや支援者の方々と里親家庭でくらす子どもたちがより良い関係を築くためのコミュニケーションツールです。これまでたくさんの方々がTOKETAを使ってくださっていますが、研修等でお話を伺う中で「子どもとの関係がうまく築けているか不安…」「支援者としての心構えや、もっと良い関わり方を知りた

い」「TOKETAをもっと活用する方法を教えてください!」といった声が寄せられてきました。また、近年は里親家庭の数が増えている一方で、子どもとの関係がうまくいかないケースも増えています。

そこで本年度は、もっとTOKETAを役立ててもらうために、改めてTOKETAの利用実態を把握するとともに支援者の方々を中心に利用者の声を調査し、TOKETAのリ・デザインに取り組みました。

1 TOKETA

の利用実態調査

里親やアドボケイト等の支援者の方々がどのようにTOKETAを活用してくださっているのか、インタビューや、ワークの様子を見学し、実態調査しました。

1 アドボケイトの方々へインタビュー

東京都は意見表明等支援事業の枠組みの中で、里親家庭への訪問を昨年からスタートしています。今回お話を伺った「一般社団法人子どもの声からはじめよう」所属の子どもアドボケイトの方々は、TOKETAを活用したアドボカシー活動に積極的に取り組まれています。アドボケイト4名と団体スタッフの方1名に活用状況についてお話を伺いました。



TOKETAを使い始めたきっかけは？

団体に購入し、6自治体に3個ずつ配布しました。各自治体10名前後のアドボケイトで共有して使っています。個人的にTOKETAを知り、購入・活用しているアドボケイトもいます。

活用の場面は？

- 一時保護所入退所時の面談
- 里親家庭への定期訪問（意見表明等支援事業の枠組みの中で）
- アドボカシー活動について里親さんに説明する時など

使い方を教えてください

- ① TOKETAは里親家庭で生活する子ども向けのカードですと説明します。
- ② 「こんにちはカード」

をアイスブレイクとして使います。団体に普段使用している「気持ちカード」も場合によっては併用します。

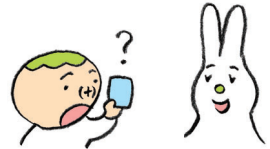
③ 子どもとアドボケイトが2人だけになったタイミングで「しつもんカード」を始めます。しつもんカードは、まず全てのカードを並べます。年齢が低い子どもの場合は一緒に読み上げ、高学年の子どもの場合は、一緒に見ましようと言って2、3分静観します。

④ 「この中で少し気になっているものある？」「共感できるカードはある？」と問いかけながら、私たちが普段持っている動物クリップを渡して「気になるカードに

このクリップをバクッとしてね。」と伝えます。

⑤ クリップをつけていないものは一旦よけて、クリップをつけたカードだけにした状態で、「これにクリップつけたのはどうして？」「どんな感じ？」と子どもに尋ねます。

一緒にカードを見ながら読み合わせする段階で、子どもから意見が出てくることもあります。「これはもうわかってるからいらない」「これは前に思ったことがある」、「でも今は言えてるから大丈夫」など。このように今現在の困りごとや思っていることだけでなく、私たちが関わっていない措置前後のことなど過去の気持ちを聞けるのもしつもんカードの良い点です。



工夫していることは？

事前のカード調整

訪問前に打ち合わせの時間を設けて、対象の子どもにとって不適切かもしれないしつもんカードは抜いています。ただし、違和感を覚えた方が気持ちを引き出せたり、気付きにつながることもあるため、本当に抜くべきかどうかは回数を重ねないと私自身も判断が難しいと感じており、悩むところです。

里親さんの理解のために

東京都は「チーム養育」に取り組んでおり、里親家庭にはさまざまな大人が関わります。私たち（アドボケイト）が訪問する時も、「他の大人と、あなたは何が違うのですか」と聞かれることも多々あります。その時はTOKETAを見せながら、「私たちは独立した立場でお子さんの声を聞く活動をしています」と丁寧に説明しています。しつもんカードを里親さんが見ることでアドボケイト活動のイメージが湧き、理解や安心感につながります。一方で、しつもんカードの内容に対しセンシティブに受け止める方も、一定数いらっしゃいます。だからこそ、「こんなお話をします」「こういうツールを使って活動しています」といった情報をもっと開示していくべきだと考えています。

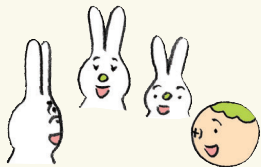
2 里親子と支援者の1日交流イベント

「子どもスペシャル」の見学

TOKETA開発の際、アドバイザーとしてご協力いただいた大妻女子大学 山本真知子先生が里親会の支部や児童相談所と連携して行なっている里親子と支援者の交流イベント「子どもスペシャル」。その中のプログラムとしてTOKETAを使う時間があり、見学をさせていただきました。ピアサポートで、TOKETAをどのように活用しているかをご紹介します。

使い方

プログラムには、中高生の里子、元里子のOBOGの15名とファシリテーター4名が参加。はじめに全員で輪になり一人ずつ簡単な自己紹介をし、ここで話したこと・聞いたことはこの部屋を出たら他の人に話さない、秘密は守るというルールを伝えた上で、2つのグループにわかれてしつもんカードを囲んだ対話がスタートしました。



工夫していること

しつもんカードの使い方

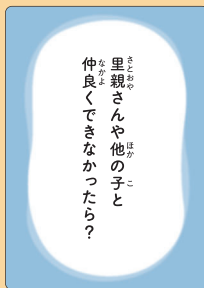
一方のグループは、サポートブックでも紹介しているように、しつもんカードのしつもん面を表に向け、しつもんの中から選んで話すという基本的な使い方をしていました。もう一方のグループは、しつもん面を裏返してランダムに選び、出たしつもん子どもが答えていくという使い方をしていました。終了後、後者のグループのファシリテーターの方に話を伺うと、あえてしつもん面を伏せたやり方だとゲーム的な要素が入り、子どもがより話しやすい雰囲気が作れるのではないかと思ったそうです。

声かけの仕方

しつもんカードを選んでもらう時は「何が聞きたい？」という聞き方のほかに、逆に「何が聞けない？」という聞き方をしていました。また、子どもが発言した気持ちや悩みに対して、OG・OBの子どもにも「自分が里子だったときどうだった？」「(里子の悩みにたいして)どうしたらいいと思う？」というように話を振り、先輩の視点から話をしてもらえるように促していました。

対話の一例

ある子どもが選んだしつもんカード



対するOBの回答

自分がいたところは、仲良くできない子どももいて、出入りが多かった気がする

自分もひとりぼっちだと感じていたので、その時にこのような場所(ピアで集まって話す場所)があればよかったと思う

他の里子と仲良くなる必要もないんじゃない？

見学を終えて

対話の例のように、OBOGや同じ境遇でくらす子ども同士で話を聞き合うことは、子どもにとって「自分の気持ちに共感してもらっている」という実感や「自分だけじゃないんだ」と気づききっかけにつながります。年齢の近い先輩からのアドバイスは子どもたちも素直に聞きいれやすく、エンパワーされているように感じました。奨学金の情報など里親子ならではの知りたい情報を得られる場にもなっています。山本先生は、「同じ子どもで、前回選んだカードと今回選

んだカードが違うなど、ワークを行うごとにその子どもの変化も感じ、長く関わり続けることの大切さを感じている」とお話しくださいました。

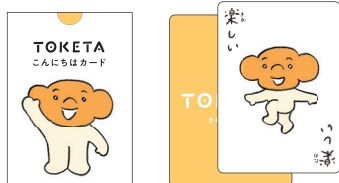
関係性によって1対1で使うのが難しいと感じられる場合は、今回のように他の子どもも含めて数人で使ったり、ゲーム要素を使い方に取り入れるなどすることで、子どもが気持ちや悩みを話しやすい環境づくりは可能だと改めて感じました。

2 TOKETA

利用者の声

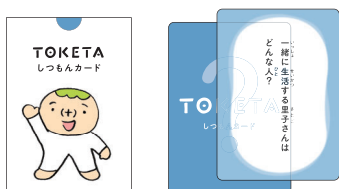
TOKETAを活用してくださっている方、TOKETAの使い方研修に参加された方からいただいた主な改善点や使い方の工夫をカードごとにまとめました。

こんにちはカード



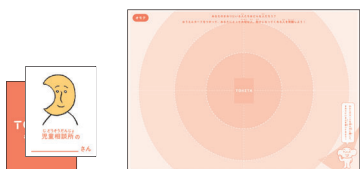
- 別売りしてほしい。
- 施設職員のチームビルディングなど大人同士の交流にも活用したい。
- 絵ときもちの組み合わせのバリエーションもあり、飽きない。枚数もちょうど良い。
- イラストがよい。大人も子どもに戻れる感じ。価値観や思い出を共通で持てることで打ち解けられる。

しつもんカード



- 子どもが読みやすいデザインの工夫をしてほしい。イラストを入れる、横書きにする、文字を大きくなど。
 - 括弧「」が抜かれている部分に自分で言葉を埋めるのは、ワンクッション思考を動かす必要がある。子どもがパッとイメージしにくい。
 - 「里親家庭で」という部分は、実際の会話では使わないので「ここで」など言い換えている。
 - 小学校高学年～中高生は内容が理解できるが、小学校低学年では難しいしつもんもある。簡単な文言にできる箇所は変更してほしい。
- 親族里親さんの事例で「自分の家族のことをきいていいですか」の「自分の家族」が指すものはその子にとって「実親」ではなく、今一緒にくらしている「親族さん」だったことがあった。子どもによって「自分の家族」がだれを指すのか違うことにハッとした。
- 「大トーク大会」と題してひとつのカードについてみんなで話したり、カードを山にしておいて裏返して答えたり、ゲーム的な要素を入れる工夫をしている。
- しつもんカードを使う前に「答えまでは出せないかもしれないけど、しっかり話を聞いて考えるね」ということを事前に伝えておくといい。

おうえんカード



- あまり活用できていない。1回1時間程度の枠で活動しているのでこんにちはカードやしつもんカードだけで精一杯。訪問や面談の回数を重ねることができたら使えるようになるかもしれない。
- 順番を変えておうえんカードを先に使う。周りの大人と一緒に確認することでしつもんカードを使う時に手がかりになる情報が得られるのでは。
- 繰り返し使えるような素材にしてほしい。

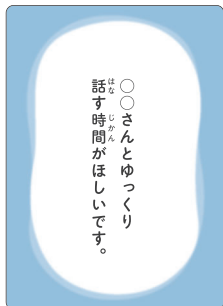
その他

- 様々な方が活用し、蓄積されたTOKETAの情報をリアルタイムで知れるものがほしい。活用事例や工夫が知れると面白いかなと思う。
- 里親申請中だが、実際に子どもが来た時のことをイメージするのに役立つ。
- 秘密のシールが1回しか使えないので、クエスチョンマークのクリップにしてはどうか。

TOKETA リ・デザイン

TOKETAをもっと活用して頂くために、1) 利用実態調査、2) 利用者の声をふまえて、リ・デザインしました。ご意見を多くいただいたしつもんカードを中心に改良しています。

改良前

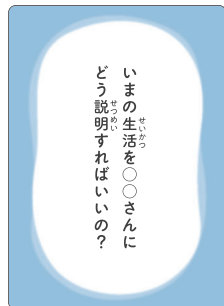


改良後

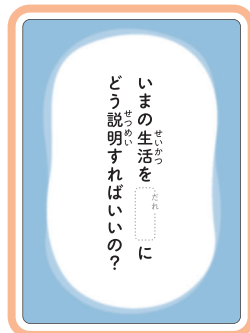


- 「○○」で抜かれている文章を極力なくしました
- 文字とルビを大きくして読みやすくしました

改良前

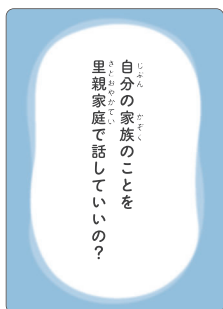


改良後

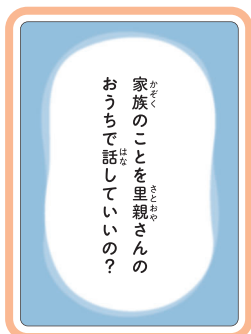


- 「○○」のデザインをよりわかりやすくしました

改良前

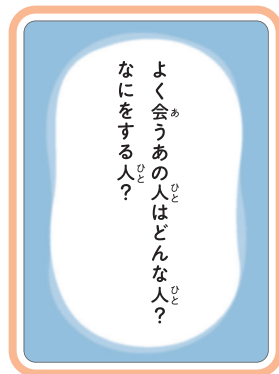


改良後



- 「里親家庭」→「里親さんのおうち」とやさしい言葉に変更しました
- 「自分の家族」→「自分の」削除しました

改良後



- 新たなカードを1枚追加しました

*改良ポイントに沿って、20枚のしつもんカードの文言を変更しました。

noteでTOKETAの活用事例やアイデアを共有します！

この調査を通じて、想定していた以上に多くの方が、さまざまな工夫をしながらTOKETAを現場で活用してくださっていることがわかりました。そこで、もっとこの情報をみなさんとも共有できれば、より積極的にTOKETAを活用でき、里親家庭支援につながるのではと考え、活用事例や工夫、アイデアを記事にし、noteで配信することにしました。支援者同士のコミュニティ作りにもつながればと考えています。

note



#意見表明支援
#子どもアドボカシー
#ピアサポート

3種類のカード中でも、しつもんカードはTOKETAの目的である「子どもたちの疑問や悩みをとくす」ためのメインカードです。だからこそ今回の取り組みで、みなさんの声を反映した形でリ・デザインできたことは、大きな成果でした。手にとっていただける機会があれば、ご感想を聞かせてください。意見表明等支援事業が全国で広まりつつある今、TOKETAが活用できるシーンやニーズは多くあります。これからも声を集めながら、事例の情報発信やさらなるツールの開発など、里親養育支援につながる活動に取り組んでいきたいと思っております。

発行 2025年3月

発行者 一般社団法人福祉とデザイン

所在地：福岡市中央区警固2-9-14

T E L：070-1185-6640

M A I L：office@welfare-design.org

H P：https://welfare-design.org



一般社団法人

福祉とデザイン

Welfare & Design



こどもの未来応援国民運動